

## 令和6年度2学期終業式 校長式辞

今日で2学期が終了します。3年生は9枚中8枚目のカードを出し終えました。手にしているのは残り1枚です。進路がまだ決定していない人は、とにかく目標を実現する努力を1分たりとも怠らないでください。進路が決定している人は、残りの勉強を最後までやり遂げると同時に、「島だち」までに島に対してどんな恩返しができるのかを考え、それをあらゆる場面で実行に移してほしいと思います。それが最後のカードの正しい切り方です。1・2年生は3年生に比べれば手にしているカードは多いとはいえ、明日からはもう新2・3年生の「0学期」の位置づけです。それぞれ3枚目・6枚目のカードを無駄に切ることのないよう、しっかりと「備え」の姿勢を作ってください。先生方もそのサポートを全力でしてください。

ところで今日は12月24日、クリスマスイブです。皆さんはどのようにクリスマスを過ごしますか。家族でチキンやケーキを食べたり、プレゼントを交換したりするのでしょうか。もう、高校生にもなれば特に何もしないという家もあるかもしれませんが、幼い頃は目が覚めたときに枕元にプレゼントが置いてあったりして、子ども心に嬉しい思いをしたという人もいるのではないのでしょうか。海外ではクリスマス前には子どもたちがいろんなお願い事を書いた手紙をサンタクロースに送るという習慣もあります。また、12月に入るとショッピングモールのイベント広場のような場所にサンタクロースが来て、幼い子どもは膝の上に座らせたりしながら、一人一人の子どもたちのお願いを聞いたりするそうです。純粹無垢な子どもたちが「今年一年いい子にしていたからクリスマスにはこれこれが欲しい」とか言うのでしょうか。

クリスマスを彩るものとしては、きらびやかなイルミネーションや誰もが馴染みのあるクリスマスソングも国内・国外問わずたくさんあります。陽気で明るいクリスマスソングを聞くと思わずワクワクしますが、今日皆さんに紹介するのは、英語タイトルで、“Grown-up Christmas List”。私なりに日本語に直せば「大人になった私のクリスマスのお願いリスト」という曲です。私が大学4年生のときに初めて聞いた曲です。この曲を聞いたとき、メロディーと同時に歌詞の美しさに感動したんですね。この曲の中の主人公は、自分で自分のことを“Grown-up”（大人になった私）と言っているのです、少なくともまだ本当の大人ではなく、大人になったと思い込んでいる子どもと私は解釈して聞きました。そんな主人公がサンタさ

んに語りかけるのです。

「私はもうすっかり大人になったけど、まだお願いを聞いてもらえますか？ もう子どもではないけど夢を持つことはまだできるんです。」

サンタさんに子どもっぽいお願いをするのがちょっと恥ずかしくなった年齢の子どもが、健気に夢を語ってしまうところに、まだ子どものあどけなさが残り、かわいらしさが伺えます。歌詞を続けます。

「一生のお願いがあるんです。自分のためにではなく、世界中にいる助けを求めている人たちのためのお願いです。」

これまでは自分のために「あれが欲しい、これが欲しい」とサンタさんをお願いしてきた主人公が、サンタさんに今回限りの一生のお願いをする。しかも、自分のためではなく全世界で援助を求めている人々のためにお願いをする。子どもらしい純粋さが溢れていると同時に、心の成長、「利他の精神」の芽生えが伺えます。ここまで来ると、単なる子どもの可愛らしいお願い事とは思えなくなってくるのです。

皆さん、この主人公、何歳くらいだと感じますか？ 私は日本では言えばサンタさんをぎりぎり信じているかもしれない小学校3～4年生くらいかなと、最初は思いました。そんな主人公の「お願いリスト」が歌詞の中で次のように並びます。

「もうこれ以上人々が分断されませんように」  
「争いごとが起こりませんように」  
「傷ついた人の心を時が癒やしてくれますように」  
「みんなに友達ができますように」  
「いつも正しいことが行われますように」  
「人々が人を愛することをやめませんように」

皆さん、どう思いますか？ ロシアとウクライナ、パレスチナとイスラエルの争いが毎日のように報道され、日本も含め世界のどこでも衝突が起こりうる現在、この曲の歌詞は争いを起こしている大人たちの心にグサリと刺さります。30年以上前に初めてこの曲を聴いたときは、「平和を訴えるクリスマスソング」くらいに思っただけで、今聴き直してみると、「まだ、

大人になりきっていない年齢の子どもに、クリスマスにこんなお願いをさせてしまうとしたら、そんな世の中は決して望ましい世の中ではない」と痛感させられるんですね。現在の世界情勢にハマりすぎていて、30年以上前の曲に今、心を締め付けられるわけです。歌詞を続けます。

「こんな幻想じみた夢を抱くのは、世間知らずの若者の妄想だと言われるかしら」「でも、そんな風に疑うことなく信じるからこそ、真実にたどり着けるのではないかしら。」と結ぶのです。世の中の表も裏も、酸いも甘いも知り尽くした大人は、「そんなの無理に決まってるだろ」と鼻で笑って相手にしないような幻想じみた夢（歌詞では illusion という単語ですが）、その夢をサンタさんに健気に語り、まだ世の中を知らないからこそ疑念を持たずに何かを信じる力（歌詞では blind belief となっていますが）、その力で夢を真実に変えたいという歌詞には圧倒的な力を感じます。ここまで聞くと、小3から小4にしては大人びたことを言っているような気がするんですね。もしかしたら、皆さんと同じ高校生くらいの若者が、サンタさんをお願い事をしていた幼い頃を思い出しながら、自分の力ではどうすることもできない世の中の不条理を何とか正したいと、サンタさんに訴えずにはいられない状況とも解釈できそうです。そう考えると、国連のスピーチで世界に衝撃を与えたマララ・ユサフザイさんやグレタ・トゥーンベリさんが、当時皆さんと同年齢の若者だったということと共通するかもしれません。ピュアな心を持った若者の強い思いに世の中を変える力があるということを皆さんも忘れないでください。では、ここまでの話を頭に入れながら、英語のリスニングも兼ねて、“Grown-up Christmas List”を聞いてみましょう。お願いします。（CD 流す）

さて、皆さんにも、自分のことはさておいて、世の中のためにああしてみたい、こうしてみたい、この与論島がああなって欲しい、こうなって欲しいという Christmas List がありますか？ Blind Belief の力で実現させたい夢がありますか？ 将来、社会や地域のリーダーになることを求められている普通科の生徒が目指すべきは自己実現ではなく、社会や地域のために自分が何を担わなくてはならないかを考えることだと私は思っています。皆さん与論高校生には、「島だち」した後、社会人になっても、若い頃に持っている純粋な夢をずっと持ち続け、社会や地域に貢献できる人材になって欲しいと切に願っています。それが私の Christmas List です。

以上、二学期終業式の式辞とします。